

17. 新型コロナウイルス感染症妊婦の帝王切開術と経膈分娩の分娩管理期間の比較

静岡赤十字病院 産婦人科

○佐藤 文化、平松 真生子、市川 義一、佐々木 貴允、栗原 みずき、服部 政博、根本泰子

【諸言】新型コロナウイルス感染症(COVID-19)妊婦の分娩は、院内感染対策を目的に全国の約 6 割で帝王切開術(CS)であった。当院の分娩例を振り返るとともに、感染対策がしやすいとされる CS と比し、経膈分娩(VD)が分娩管理期間を短縮させる可能性について検討した。

【方法】当院で分娩した COVID-19 妊婦について後方視的に検討した。

【結果】COVID-19 妊婦の分娩総数は 9 例で全て正期産、内訳は CS が 3 例、VD が 6 例であった。

CS はいずれも産科的適応はなく陣発 2 例、未陣発 1 例であった。2 例は隔離解除まで入院を継続し、入院期間(以降全て中央値)は 8 日 12.5 時間、分娩時間は 4.5 時間、入院から分娩終了時間は 6.8 時間、分娩終了から退院までの時間は 8 日 5.7 時間であった。

VD は陣発 3 例、入院管理中の陣発 2 例、破水 1 例であった。5 例は病床逼迫のため分娩後約 2 日以内での退院とし、退院後は連日電話での健康観察を実施した。入院期間は 2 日 5.3 時間、分娩時間は 7 時間、入院から分娩終了時間は 6.7 時間、分娩終了から退院までの時間は 1 日 9.4 時間であった。

【結語】 COVID-19 妊婦の VD では、CS より入院期間を短縮させることが可能であった。VD が、感染対策や感染拡大下での病床確保に寄与する可能性が示唆された。